

概要版

府民と共に

京都夢実現プラン

京都府総合計画



京都府

ごあいさつ



京都府知事
西脇 隆俊

京都府では、本年10月、新しい行政運営の指針となる「京都府総合計画(京都夢実現プラン)」を策定しました。

私たちを取り巻く社会の情勢を見てみますと、少子高齢化・本格的な人口減少の進展により、経済活動や地域コミュニティの維持など様々な面において、大きな影響を及ぼすことが懸念されています。また、近年、AI・IoTなどの技術革新による社会のスマート化が急速に進展し、産業分野や私たちの暮らしへの活用が期待されています。一方、想定を超える規模の自然災害が頻発し、安心・安全に対する大きな脅威となるなど、京都府の未来を築き上げていくには、多くの課題が立ちはだかっています。

しかし、ここ京都には、長い歴史をかけて先人が守り紡いできた文化や伝統産業、そして、人と人との絆があります。私は、こうした「京都力」とも言うべき力を結集し、府民の皆様とともに、京都府の未来に向けた歩みを進めていきたいと考えています。

この計画では、20年後の2040年に実現したい京都府の姿として、「一人ひとりの夢や希望が全ての地域で実現できる京都府をめざして」を掲げました。人を大切にしたい、環境も含めた地域を大切にしたい。京都府の未来を創り上げるには、人と地域という視点を大切にしたいとの思いを込めたものであります。

具体的には、20年後に実現したい将来像を示した「将来構想」、概ね4年間で取り組む実行計画とも言うべき「基本計画」、広域振興局ごとの「地域振興計画」を策定しました。特に、「基本計画」では、「府民協働で取り組むきょうとチャレンジ」として、「子育て環境日本一」「府民躍動」「文化創造」「新産業創造・成長」「災害・犯罪等からの安心・安全」の5つのテーマを選定し、府民や地域、企業等の皆様と連携し、横断的な取組を進めることとしており、皆様の幅広い御協力をお願い申し上げます。

本計画がめざす京都府の実現に向けて、府民の皆様と総力を結集し、府内全ての地域が活力にあふれ誇りの持てる、新しい時代の京都府を築き上げてまいります。

令和元(2019)年12月

「総合計画」とは、平成 23（2011）年に制定した「京都府行政運営の基本理念・原則となる条例」第 4 条の規定により、京都府のめざす方向性を将来構想、基本計画等の形で明らかにするものです。

京都府総合計画は、「将来構想」と「基本計画」、「地域振興計画」によって構成しています。

将来構想

概ね 20 年後の令和 22（2040）年を展望し、実現したい京都府の将来像を理念的に示しています。

基本計画

府民の皆さまや地域・企業等と連携し、横断的に取り組む「府民協働で取り組むきょうとチャレンジ」、地域に着目した「エリア構想」、全体を分野別に体系化した「分野別基本施策」の 3 つの視点で構成し、概ね 4 年間の取組を示しています。

地域振興計画

山城・南丹・中丹・丹後の広域振興局ごとに、各地域の資源や特性を生かした、地域振興策を示しています。



将来構想

20年後に実現したい京都府の将来像

～ 一人ひとりの夢や希望が全ての地域で実現できる京都府をめざして ～

1. 人とコミュニティを大切にする共生の京都府

子育てに優しい社会は、全ての世代にとっても暮らしやすい社会です。一人ひとりの尊厳と人権が尊重され、男性も女性も、子どもも高齢者も障害者も、外国人も、全ての人が地域で「守られている」、「包み込まれている」と感じ、誰もが持つ能力を発揮し、参画することのできる社会づくりをめざします。

そして、2040年の京都府社会の姿として、誰もが生き生きと暮らし、幸せを実感できる、「人とコミュニティを大切にする共生の京都府」を実現します。



2. 文化の力で新たな価値を創造する京都府

京都が京都であり続けるために、人々の絆で守り伝えられてきた地域の文化を継承・発展させ、京都府に住む人、学び働く人、訪れる人など全ての人を惹きつけ、さらには、文化が観光・食・伝統産業から先端産業まで、あらゆる分野と融合し、京都流の新たな価値を創造し、発信し続ける社会づくりをめざします。

そして、2040年の京都府社会の姿として、暮らしの中に多様な文化が息づき、文化の力が京都力の源泉となり、「文化の力で新たな価値を創造する京都府」を実現します。





3. 豊かな産業を守り創造する京都府

大学や多様な企業、研究機関の集積を生かし、高度人材の確保、あらゆる産業分野の融合、ビッグデータ、さらには AI、IoT 分野の新たな技術開発やその活用でイノベーションを起こし、「オール京都」による連携のもと、キラリと輝く企業が府内のあらゆる地域に立地している社会づくりをめざします。

そして、2040 年の京都府社会の姿として、伝統と先端の融合により、「豊かな産業を守り創造する京都府」を実現します。



4. 環境にやさしく安心・安全な京都府

頻発する自然災害の要因ともいわれる気候変動に適応し、「脱炭素」で環境にやさしい社会を実現するとともに、災害・犯罪等から府民の安心・安全をハード・ソフトの両面から守ることも極めて重要です。こうした基盤をベースに全ての地域が地域資源を生かした豊かさを実感できる地域づくりをめざします。

そして、2040 年の京都府社会の姿として、地球環境と調和した、しなやかで強靱な「環境にやさしく安心・安全な京都府」を実現します。



基本計画

1. 府民協働で取り組むきょうとチャレンジ

「将来構想」で掲げた将来像の実現に向けて5つのテーマを選定し、府民協働で積極的に“チャレンジ”する方策を示したものです。

子育て環境日本一



府民躍動



文化創造



新産業創造・成長



災害・犯罪等からの
安心・安全



2. エリア構想

「将来構想」で掲げた将来像の実現に向けて5つのエリアに着目し、地域の個性ある魅力づくりや更なる成長・発展につなげる構想を示しています。

北部グローバル構想



京都スタジアムを
中核とする
スポーツ&ウェルネス構想



新名神を活かす
「高次人流・物流」構想



北山「文化と憩い」の
交流構想



スマートけいはんな
広域連携構想



3. 分野別基本施策

20 の分野ごとに「20 年後に実現したい姿」と、目標達成に向けた 4 年間の主な具体方策、数値目標を示しています。



1. 府民協働で取り組むきょうとチャレンジ

きょうと
チャレンジ

1

子育て環境日本一

全国平均並みの合計特殊出生率をめざし
「子育て」の視点から
社会の変革を！



きょうと
チャレンジ

2

府民躍動

人生100年時代を見据えて
誰もが生きがいを感じられる
共生社会づくりを！



きょうと
チャレンジ

3

文化創造

文化庁が本格移転する京都から
文化の力で地域に
活力を生み出す社会づくりを！



きょうと
チャレンジ

4

新産業創造・成長

企業のスタートアップから成長、継承まで
イノベーションが起こり続ける
事業環境の創造を！



きょうと
チャレンジ

5

災害・犯罪等からの安心・安全

AI等の活用によりハード・ソフト一体で
最先端の危機管理と
安心安全体制の構築を！



(全体構成)

主な方策

- 子育て環境日本一に向けた「職場づくり行動」運動
- 地域子育て充実度見える化システム
- 企業の意識改革「ワークチェンジ塾」

主な府民協働

- まちなかで子育て世代を「邪魔・迷惑扱い」しない「やさしい社会」づくり
- 男性も女性も育休が取りやすい雰囲気と環境づくり
- 経営者・社員の意識改革

主な数値目標

住んでいる地域が、子どもが育つのに
良い環境だと思う人の割合

目標 (2023 年度)

2019 年度は

82.6%

UP

90%



主な方策

- 生涯現役クリエイティブセンター（仮称）
- スポーツのメッカづくりプロジェクト
- 女性活躍応援塾（仮称）
- 産学公連携海外人材活躍ネットワーク

主な府民協働

- 自らの能力を発揮できるキャリアデザインを描く
- 希望に応じた生き方・働き方を通じた、地域での活躍の場の発見
- 外国人も日本人も、共に互いの文化を理解し尊重し合える地域社会づくり

主な数値目標

趣味や地域貢献活動など、やりがいや
生きがいを感じるものがある高齢者の割合

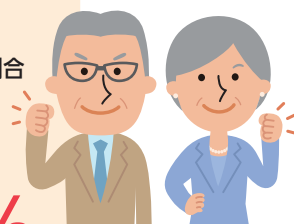
目標 (2023 年度)

2019 年度は

72.6%

UP

80%



主な方策

- 京都国際アートフェア
- 北山エリア「シアター・コンプレックス」
- 文化財保存・活用促進プロジェクト
- 障害者アート創造・発信プロジェクト

主な府民協働

- 地域に受け継がれてきた祭りや伝統芸能の保全と、次世代への継承
- 文化芸術の裾野拡大に向けた多様な体験の機会提供
- 和食や文化芸術に携わる人材の育成とバックアップ

主な数値目標

文化・芸術に関わりを持つ
(鑑賞・体験含む) 人の割合

目標 (2023 年度)

2018 年度は

57.8%

UP

70%



主な方策

- 起業するなら京都・プロジェクト
- 環境イノベーション創出プロジェクト
- ビッグデータ活用・京都観光交流圏周遊プロジェクト

主な府民協働

- 異業種交流、産学公連携等を通じた商品開発や人づくり
- スマートシティ、スマート農山漁村づくりと連携した、次世代型地域づくり

主な数値目標

開業率

目標 (2021 年)

2016 年は

4.3%

UP

5.1%



主な方策

- 危機管理センター設置等、防災対応力強化
- 逃げ遅れゼロ・プロジェクト
- AI 等活用「犯罪制御システム」

主な府民協働

- 大規模広域災害時における企業の BCP（事業継続計画）の策定
- 若手・女性など消防団への加入、ふるさとレスキュー等への参加
- 府民協働防犯ステーションを核とした防犯ボランティア活動への参加

主な数値目標

災害時声掛け隊の人数 (累計)

目標 (2023 年度)

500人



「子育て環境日本一」 きょうとチャレンジ

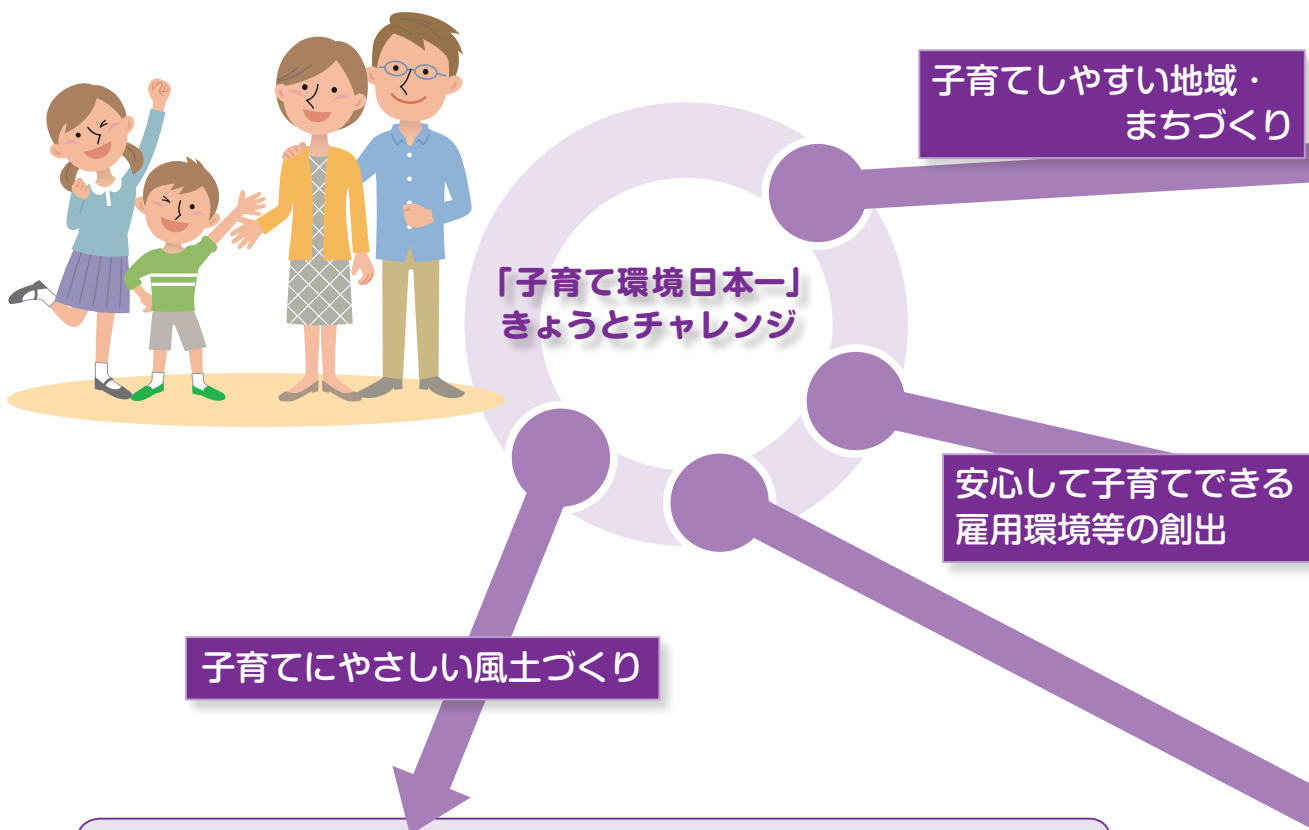


基本方針

2040年に全国平均並みの合計特殊出生率をめざし、行政、府民、地域、企業などあらゆる主体の総力を結集し、「子育て」の視点から社会を変革する

施策体系図

※主な重点・新規方策を■としています。



- 「きょうと子育て環境日本一サミット（仮称）」を設置し、子育て環境「共同声明」を発信
- 地域の子育て環境の充実度の数値化指標を「地域子育て充実度見える化システム」として構築
- 「子育て環境日本一に向けた職場づくり行動宣言」の取組を進め、時間単位の年休取得の導入等働きやすい職場環境づくり
- 企業の意識改革「ワークチェンジ塾」を開設し、経営者・男性社員の意識改革等を支援
- 若者向けの「ライフデザインカレッジ」を創設し、多様なライフデザインの選択を支援
- ☐ 京都経済センターのテレビ会議システムによる「子育て支援セミナー」等の開催
- ☐ 「きょうと婚活応援センター」に府内の婚活情報を集約しSNSで情報提供

主な到達目標

住んでいる地域が、子どもが育つのに
良い環境だと思う人の割合

子育て環境日本一に向けた職場づくり
行動宣言を行った企業数（累計）



※主な到達目標については、「3. 分野別基本施策」の主な数値目標にも再掲しています。

- 府立医科大学附属病院にNICUを増床するほか、「総合周産期母子医療センター」に指定し、周産期医療ネットワークを拡充

- ☐ 保育所・放課後児童クラブの整備
- ☐ 府営住宅の子育て世代向け改修
- ☐ 「コレクティブハウス」の支援
- ☐ 児童虐待の未然防止・対応力強化



- 「不妊治療総合支援システム」を確立し、特定不妊治療に係る通院交通費の負担軽減制度の創設等

- ☐ 保育に係る費用の負担軽減
- ☐ 「子育て支援団体」の認証
- ☐ 「赤ちゃん応援隊」の活動支援

- 新卒離職「3年の壁・再チャレンジプロジェクト」を創設し、ブランクを空けない就業復帰を支援し「安定就業」を推進

- 「地域の働く場創出・育成プロジェクト」を創設し、アクセラレーションプログラムのほか、地域資源を生かした商品づくりや農家民宿等の仕事興し、「NEO KOUGEI」の製造など、地場産業の成長を支援するとともに、「子育てにやさしい企業団地」の整備を促進し、企業立地を推進

- 新しいビジネスモデルとして、「子育てにやさしい職場環境づくりサービス」の創出を支援

- 女性のM字カーブを解消するため、「ホップ・ステップ・ジャンプ型就業プロジェクト」を創設し、子育て期からの仕事復帰を支援

- ☐ 京都ジョブ博の開催等による企業とのマッチングサポート
- ☐ 奨学金返済支援制度の普及促進



府民・地域・企業等と共に取組を進めたい事項



【府民・地域】

- まちなかで子育て世代を「邪魔・迷惑扱い」しない「やさしい社会」づくり
- 子育てに自然と手を差し伸べる雰囲気づくり
- 子育て中の若い世帯を孤立させない地域づくり
- 地域コミュニティ形成による子ども・親の交流促進
- 子育て支援を行う団体の活動への参画
- 子育ての悩みを気軽に身近で相談できる地域づくり

【企業・経営者】

- 男性も女性も育休が取りやすい雰囲気と環境づくり
- 経営者・社員の意識改革
- 時間休制度の創設や子育てに関する福利厚生の実施
- 新卒離職者に再チャレンジの機会として新卒同様に採用
- 若い社員が孤立しないよう他社との同期連携など柔軟なグループ形成

「府民躍動」 きょうとチャレンジ

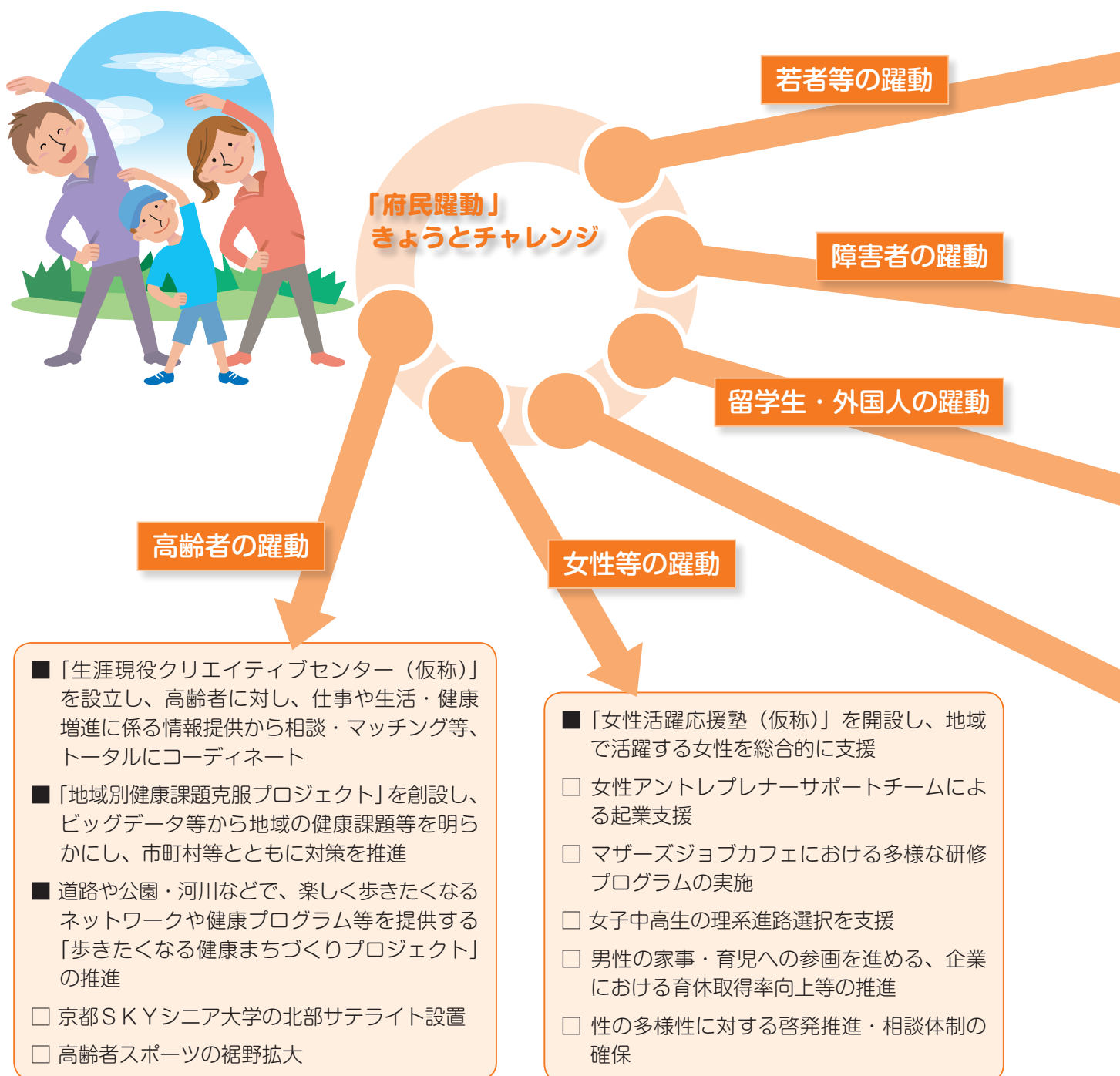
基本方針

人生100年時代を見据え、府民の誰もが生きがいを感じることできる共生社会づくりを進める



施策体系図

※主な重点・新規方策を■としています。



主な到達目標

仕事をはじめ社会的な生活を営む上で、
自分の持っている才能や知識、技量などが
十分に発揮できていると思う人の割合

目標 (2023 年度)

2019 年度は
52.2% **UP**

70%

趣味や地域貢献活動など、やりがいや
生きがいを感じるものがある高齢者の割合

目標 (2023 年度)

2019 年度は
72.6% **UP**

80%

※主な到達目標については、「3. 分野別基本施策」の主な数値目標にも再掲しています。

■「スポーツのメッカづくりプロジェクト」を創設し、プロスポーツや国際的・全国的な試合、高校・大学スポーツの決勝戦等の京都スタジアムへの誘致及び開催を行うとともに、京都スタジアムがボルダリングやニュースポーツ、eスポーツのメッカとなる取組の推進

- トップアスリートマルチサポートシステム
- 京のこどもダイヤモンドプロジェクト
- 異文化交流グローバル人材育成プログラム
- 大学生地域活動マッチングプロジェクト
- 「脱ひきこもり早期支援特別チーム」による寄り添い支援



■「京都式農福連携・6次産業化プロジェクト」を創設し、6次産業化やブランド化を支援

- ICT等を活用した就業支援の仕組みづくり
- 文化芸術・スポーツ分野の活動・交流の場づくり



■「産学公連携海外人材活躍ネットワーク」を創設し、外国人が安心して暮らせる受入体制の構築、インターナショナルスクールの誘致、居住環境面の相談及び地域の多文化共生までをサポート

- 府内企業に就職した留学生OBとの交流会など、マッチングの促進
- 日本語教室の充実など地域の受入環境の整備、多言語生活相談体制の整備



府民と共に取組を進めたい事項



- 自らの能力を発揮できるキャリアデザインを描く
- 元気に歳を重ねることができるよう、自らの健康のチェック
- まちに出かけ、ウォーキングなど健康づくりへの取組、様々なスポーツへのチャレンジ
- 企業での実践型実習や、農業分野での就労へのチャレンジ
- ICT等を活用した在宅就業などへのチャレンジ
- 文化芸術やスポーツ分野での活動・交流への参加
- 希望に応じた生き方・働き方を通した、地域での活躍の場の発見
- 育休取得やワークシェアなど、働きやすい職場環境づくり
- 「留学先・学びのまち」京都での夢の実現
- 京都での新たな文化・産業・技術の創出
- 外国人も日本人も、共に互いの文化を理解し尊重し合える地域社会づくり

「文化創造」 きょうとチャレンジ

基本方針

地域文化を大切にするとともに新しい文化が生まれ続け、地域に活力を生み出す社会づくりを、文化庁が本格移転する京都から進める



施策体系図

※主な重点・新規方策を■としています。



「文化創造」 きょうとチャレンジ

人材育成・活動拠点整備

観光・産業との融合

新たな文化創造

文化の保存・継承・活用

- 府内各地で「ミュージックキャンプ」を開催し、その成果を「府民総合奏」として京都スタジアムで発表
- 「障害者アート創造・発信プロジェクト」を創設し、障害者のアート作品の販売、ポストカードとしての商品化を推進。新しい作家の発掘を含め、その創作活動をデジタルにより記録・保存し、国内外へ発信するとともに、きょうと障害者文化芸術推進機構と府内の芸術大学とのコラボレーションによる作品展等を開催
- 先端科学・産業技術研究者と文化芸術関係者との知的創造のための交流の場の創出
- クロスメディア産業育成のため、クリエイターや研究者が交流できる環境の整備
- 地域アートマネージャーによる文化を活用した地域活性化
- 伝統芸能や美術工芸など多分野の文化芸術団体のネットワーク化

- 「文化財保存・活用促進プロジェクト」を創設し、社寺等の文化財において地域の特色を生かした文化に親しむ取組の支援など、文化財の「保存」と「活用」の好循環を創出。文化財の公開等を支援する文化財の専門知識を有した人材の養成、高精細画像化等による文化財の観光・教育資源等への活用、学研都市における、触れることのできるクローン文化財の展示・作製拠点の整備
- 「地域文化継承プロジェクト」として、地域の祭り等の担い手確保に向け、外部人材活用の仕組みを創設
- 史跡を巡るツアーの実施や、国宝等の文化財建造物修理現場の公開
- 「暫定登録文化財」制度等、文化財の適切な保存によるまちづくりへの活用

主な到達目標

文化・芸術に関わりを持つ
(鑑賞・体験含む) 人の割合

目標 (2023 年度)

2018 年度は
57.8%



70%

歴史的な文化遺産や文化財などが
社会全体で守られ、活用されていると
思う人の割合

目標 (2023 年度)

2019 年度は
84.9%



90%

※主な到達目標については、「3. 分野別基本施策」の主な数値目標にも再掲しています。

- 「堀川アート&クラフトセンター（仮称）」を活用した、アート&クラフトの創造・発信の強化
- 様々な規模の劇場等が集積した「シアターコンプレックス」など、旧総合資料館跡地、植物園などの整備
- 府立高校で「京の文化継承・価値創造推進校」を指定し、京都の本物の文化を次世代に継承
- 世界で活躍できる京都アーティストの育成
- 府立大学と連携した和食文化人材の育成
- 文化芸術専門人材の確保と持続的な事業推進のための体制整備



- 「京都国際アートフェア」を開催し、一流アーティストの作品や京都と世界のアートとクラフトを一堂に鑑賞、販売できる機会を提供
- 地域の文化資源を体験できる、「地域文化次世代情報発信・体験拠点」の整備
- もうひとつの京都など文化資源を生かした地域振興
- 文化芸術作品の製作、発表から海外市場も含めた販売まで、京都で一貫して行うことができる一連のサイクルの創出



府民・地域や企業・大学、文化・芸術関係者等と共に取組を進めたい事項

【府民・地域】

- 地域に受け継がれてきた祭りや伝統芸能の保全と、次世代への継承
- 誇るべき文化財や自然環境などが世界遺産や日本遺産に登録されるための、草の根の取組

【企業・大学】

- 和食や文化芸術に携わる人材の育成とバックアップ
- 美術品や関連の商品・サービスなど「アート産業」の振興や、他分野との連携
- 芸術と融合した新しい商品・サービスの創出

【文化・芸術関係者】

- 創作活動と技術の継承
- 世界のアート関係者との交流やネットワークづくり
- 文化芸術の保全と国内外への発信
- 文化芸術の裾野拡大に向けた多様な体験の機会提供



「新産業創造・成長」 きょうとチャレンジ

基本方針

企業のスタートアップから成長、継承まで、イノベーションが起こり続ける最適な事業環境の創造を京都から進める



京都経済センター

施策体系図

※主な重点・新規方策を■としています。



「新産業創造・成長」
きょうとチャレンジ

スタートアップ支援

成長支援・海外展開

AI・IoT等の活用促進

承継・人材育成

- 「MaaS・α促進プロジェクト」を創設し、「Mobility」だけでなく、「Factory（工場）」などの分野においても、クラウドサービスを活用し、新たなビジネスを創出
- 「スマートアグリ・イノベーションセンター（仮称）」を設立し、地域に応じてAIやIoTを活用した農林水産業の取組を本格化するとともに、ロボットを活用した生産活動の自動化を推進
- ビッグデータ活用・京都観光交流圏周遊プロジェクト（再掲）
- 大学やAIベンチャー企業と連携した小規模事業者のAI・IoT活用支援
- ロボット技術の研究開発（けいはんなロボット技術センター）

- オール京都の「高度人材育成プログラム」を策定し、ものづくりをはじめ各産業における研究開発人材を育成
- 「課題解決型学習」等の機会の充実に向け、産学連携型学習「京都『結（ゆい）』コンソーシアム（仮称）」により官民一体の教育を推進
- ビッグデータ活用・京都観光交流圏周遊プロジェクト（再掲）
- 中小企業の事業承継支援
- 農業・林業大学校におけるAI、ロボット技術等を活用したカリキュラムの開設

主な到達目標

従業者1人当たりの
付加価値額（製造業）

目標（2023年）

2018年は
15,168千円

UP

21,000千円

開業率

目標（2021年）

2016年は
4.3%

UP

5.1%

※主な到達目標については、「3. 分野別基本施策」の主な数値目標にも再掲しています。

- 「起業するなら京都・プロジェクト」を創設し、アクセラレーションプログラムの取組を推進し、世界中から有能な人材や企業が集う仕組みを構築。多様なニーズに対応したインキュベーター施設を供給するとともに、創業支援、経営革新、販路開拓などを中小企業応援センターでトータルサポート。小中学生がものづくり体験等に触れることのできる機会の提供や、高校生を対象にした「ベンチャー講座」の開設
- 産業拠点のネットワーク化（京都経済センター、丹後・知恵のものづくりパーク、北部産業創造センター、京都府産業支援センター、けいはんなオープンイノベーションセンター（KICK）、けいはんなプラザ（ラボ棟）等）
- コンテンツ産業の育成と、観光など多様な分野とのコラボレーションによる新ビジネスの創出
- 「農業ベンチャー・インキュベーションファーム」の開設

- VR・AR技術等について、企業活動の積極的な支援や「京都VR・AR拠点」の形成
- サブスクリプション（定額）ビジネス分野も見据え、地域資源を生かした京都独自のビジネス展開を「シェアリングエコノミー促進プロジェクト」として推進
- 「ミニ MICE 誘致促進プロジェクト」として、会議や招聘旅行等小規模なものや、農家民宿の活用等地域資源を活用した多様な MICE を誘致
- 「環境イノベーション創出プロジェクト」として、環境・経済・社会の好循環を生み出す取組の推進
- 「ビッグデータ活用・京都観光交流圏周遊プロジェクト」を創設し、「京都市+府域+近隣府県」での観光交流、観光客の府全域への周遊を促し、地域社会と観光とが共生できる社会づくり等を推進
- 「京都海外ビジネスセンター」を設立し、「Made in Kyoto」をコンセプトとしたブランドの構築
- 「NEO KOUGEI」の展示・紹介及び商談機会の創出等を行う「TANGO OPEN CENTER（仮称）」の整備
- 世界博物館会議（ICOM）京都大会を契機とした「KYOTO KOUGEI WEEK」の開催
- 海外需要拡大に向けた「宇治茶プレミアムブランド戦略」の推進

企業・農家、府民・地域等と共に取組を進めたい事項



【企業・農家】

- 異業種交流、産学公連携等を通じた商品開発や人づくり
- 後継者不足などにより事業継続が困難となる前の早めの準備による事業承継
- 農商工連携や6次産業化への取組
- DMOと連携した観光マーケティングや、地域資源を生かした商品づくりなど、広域観光の取組

【府民・地域】

- 農家民宿の活用等地域資源を活用した多様な MICE における地域のおもてなし
- 多様な主体（行政と結びつける中間組織など）と連携した、環境・経済・社会の好循環への積極的な取組
- スマートシティ、スマート農山漁村づくりと連携した、次世代型地域づくり
- 京都発ベンチャーなどが生み出す新たな商品やサービスの積極的な利活用

「災害・犯罪等からの安心・安全」 きょうとチャレンジ

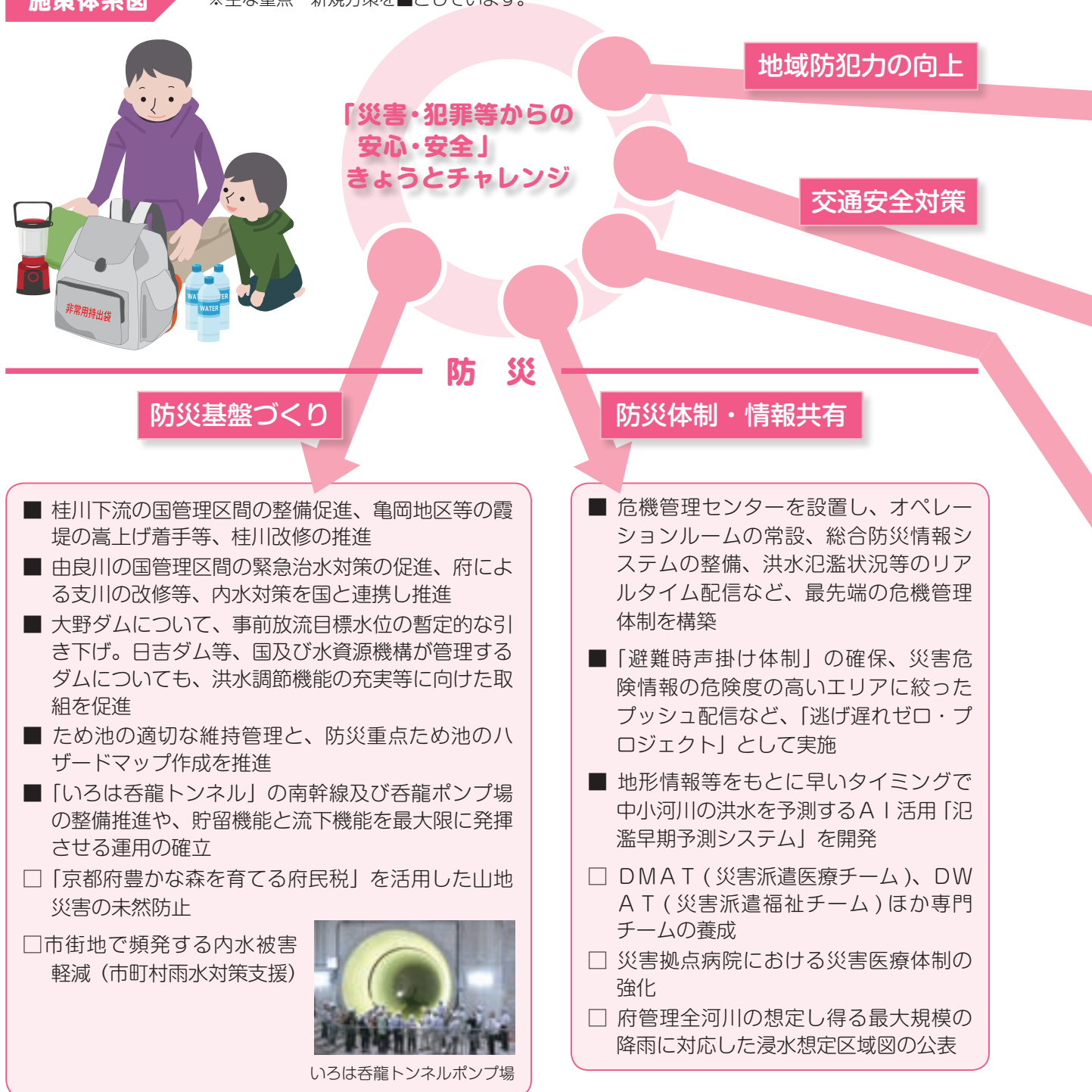
基本方針

災害や犯罪等から府民の命と財産を守るため、A I等の活用によりハード・ソフト一体となった最先端の危機管理・安心安全体制を構築する



施策体系図

※主な重点・新規方策を■としています。



主な到達目標

災害時声掛け隊の人数（累計）

刑法犯認知件数

目標（2023年度）

500人

目標（2023年）

DOWN
2018年は
16,821件

15,000件

※主な到達目標については、「3. 分野別基本施策」の主な数値目標にも再掲しています。

防犯・交通安全

- A I等を活用して犯罪防御システムを高度化し、先制的なパトロール等犯罪抑止対策を推進
- A I等の最新技術の活用による特殊詐欺等に対する防御力の強化
- 高度化・巧妙化するサイバー犯罪やサイバー攻撃への的確な対処
- 国際化や訪日外国人急増に伴う事件・事故、遺失拾得等の対応強化



- 「子どもの交通安全「安心空間」確保プロジェクト」を創設し、通学路やお散歩コース等の路肩の拡幅やポール設置等の交通環境を整備。車両運転者への対策として交通安全教室等の開催や、安全運転サポート車や急発進抑制装置装着の普及を推進
- G I Sを活用した交通事故の発生原因等の分析に基づく、原因別に重点を絞った交通事故防止対策の推進
- 地域の実情に応じた高齢運転者の交通事故防止対策の推進
- 交通事故防止、交通事故被害軽減に資する交通指導
- 自転車運転に係る交通安全教室の実施や交通ルール遵守の呼びかけ



企業・府民・地域等と共に取組を進めたい事項



防 災

【企業】

- 大規模広域災害時における企業のBCP（事業継続計画）の策定

【府民・地域】

- 若手・女性など消防団への加入、ふるさとレスキューや大学生消防防災サークルへの参加
- 住民による地域の災害リスクの把握や水害等避難行動タイムラインの作成

防犯・交通安全

【府民・地域】

- 府民協働防犯ステーションを核とした防犯ボランティア活動への参加
- 思いやりのある運転の心がけ
- 交通安全ボランティア活動への参加
- 運転に不安を感じた場合等の、運転免許の返納の検討
- 高齢者の歩行の安全等に資する反射材用品等の着用推進